

甲 第 号

井上 正義 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	國安 弘基
論文審査担当者	委員	教授	田中 利洋
	委員(指導教員)	教授	長谷川 正俊

主論文

Efficacy of combination of transarterial chemoembolization and radiation therapy for patients with hepatocellular carcinoma ineligible for resection or radiofrequency ablation.

切除およびラジオ波凝固療法が適応外と判断された肝細胞癌症例に対する経動脈的化学塞栓療法と放射線療法の併用療法の効果

Masayoshi Inoue, Junko Takahama, Hideki Kunichika, Emiko Shimoda, Kengo

Morimoto, Mei Nikimoto, Nobuyoshi Inooka, Masatoshi Hasegawa.

Journal of Nara Medical Association, 2022, in press

論文審査の要旨

切除不能およびラジオ波凝固の適応のない肝細胞癌に対して標準的に施行されている経動脈的化学塞栓療法はそれのみでは十分な局所制御が得られていない。本研究では、経動脈的化学塞栓療法後に放射線療法とくに体幹部定位放射線治療を併用することにより、良好な局所制御効果が得られることを報告している。

公聴会では、胆道狭窄など放射線治療に伴う有害事象に対する対策、あるいは、経動脈化学塞栓療法による腫瘍の低酸素化の放射線量に対する影響などについて質問がなされたのに対し、1回照射線量や照射範囲を調節することにより軽減可能であること、および、化学塞栓療法後に残存する癌細胞は腫瘍辺縁部に多いため酸素化されており放射線療法への抵抗性を惹起しにくいなど、適切な回答がなされた。

本研究は、治療困難な肝細胞癌に対する新たな治療方法として経動脈的化学塞栓療法と放射線療法の併用が有用であることを示したもので、今後の肝細胞癌治療の標準治療の候補となりうる重要な研究である。

参 考 論 文

1. Current role of hybrid CT/angiography system compared with C-arm cone beam CT for interventional oncology.

Tanaka T, Arai Y, Inaba Y, Inoue M, Nishiofuku H, Anai H, Hori S, Sakaguchi H, Kichikawa K. Br J Radiol. 2014 Sep;87(1041).

2. Splenic Vein Embolization Using Coil Anchors and Prophylactic Occlusion of a Hepatofugal Collateral for Hepatic Encephalopathy due to Splenorenal Shunt: Technical Note and Literature Review.

Inoue M, Tanaka T, Nakagawa H, Yoshioka T, Kichikawa K. Case Rep Radiol. 2013.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに放射線腫瘍学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和4年3月8日

学位審査委員長

分子腫瘍病理学

教授 國安 弘基

学位審査委員

画像診断・低侵襲治療学

教授 田中 利洋

学位審査委員(指導教員)

放射線腫瘍学

教授 長谷川 正俊